KELA

サクセス・ストーリー

KELAのサイバーインテリジェンスプラットフォームが大手日系金融機関のクレジットカード番号流出を検出し，金銭的被害を未然に阻止

背景

KELAの自動アタックサーフェス監視モジュールは、**詐欺を専門とするTelegramグループ**でクレジットカード番号のリストが公開されていることを検知した。このリストには**3万件にのぼる膨大なクレジットカード番号が含まれてお**り、そのうち188件はKELAの顧客である、大手日系金融機関のものであることが判明した。この188件はいずれも有効なカードであり、**利用可能残高の累計は75万ドル超**にのぼった。

不幸中の幸いとも言えることに、KELAは同金融機関が発行したクレジットカードの番号を**監視対象とする「組織の資産」としてプラットフォームに登録していた。**この事前措置と、KELAのソリューションに搭載された高度なテキスト抽出機能が功を奏し、流出したクレジットカード番号を迅速かつ効率的に検知。またこのデータ侵害を速やかに特定できたことで、その後の対応策のスピ**ーディな展開が可能となり**、同金融機関が経済的損失を被るリスクを低減することに成功した。

KELAのサイバーインテリジェンスプラットフォームは、顧客である大手日系金融機関が金融詐欺の被害に遭うリスクを検知・軽減するうえで極めて重要な役割を果たした。このインシデントは、積極的な監視がいかに重要であるかを物語る一例だ。

クレジットカード情報の漏えいがもたらす深刻なダメージ
――経済的損失、個人情報の窃取、企業評価の低下――

インスタントメッセージのチャンネルや非公開のフォーラム、違法マーケットでクレジットカード情報が漏えいしてしまった場合、個人と企業の両方に深刻な被害が生じることが予想される。例えば、サイバー犯罪者がクレジットカード情報を悪用して物品を購入すれば、カードの所有者は金銭的損害を被ることになるだろう。クレジットカード情報を使って「なりすまし」を行う可能性もある。なりすましに悪用された場合は、物品の購入に利用された時とは比べものにならない経済的損失が生じたり、カードの所有者の信用スコアに悪影響をおよぼす事態にもなりかねない。

一方、クレジットカード情報の漏えい元となった企業は経済的損失を被る以外に、法的な問題に直面したり、顧客の信頼を失う可能性もあるだろう。クレジットカード情報が含まれたデータが侵害されてしまえば、顧客に不満が生じることは避けられない。企業に対する評価を著しく低下させ、事業の損失を招くことにもつながる。クレジットカード情報の漏えいが企業の財務や評価にもたらす影響は、もはや我々が想像する域を超えているのだ。

EMPOWERED BY KELA

KELAのサイバーインテリジェンスプラットフォームが検知・無力化したリスク

30,000
件のクレジットカード番号のうち

1960
件がKELAの顧客に関連

1960件のうち
1522
件は発見時点で無効化済み

250
件は重複データ

188
件は使用可能なクレジットカード番号

KELAのプラットフォームがクレジットカード番号を抽出した後、金融機関は該当するカードをただちに特定して各カードを無効化。このスピーディな対応が功を奏し、カードの不正利用リスクを低減するとともに経済的損失を最小化させることに成功した。

THE SUCCESS

KELAのサイバーインテリジェンスプラットフォームで詐欺を防止

- KELAのサイバーインテリジェンスプラットフォームが金融機関のクレジットカード番号漏えいを検知
- 金融機関は、検知された情報をもとに該当するカード番号を特定し、不正使用の脅威を無力化
- その結果、金融機関はクレジットカード詐欺で75万ドル超の損失が発生する事態を阻止することに成功

EMPOWERED BY KELA

KELA
www.kelacyber.com/ja / marketing@ke-la.com / 03-6634-7836

- Copyright© 2023 KELA -